

※質問の全文を記載しています。
※「問」については、議員が提出した通告書どおりに掲載しており、編集は行っていません。



答弁中の中嶋町長

総合的な幼保教育と待機児童対策は

新制度と新アザレア幼児園建設で

問

来月4月から子ども・子育て支援新制度がスタートします。これは、国が子育て支援を充実させるための制度です。新制度で、須恵町の幼保教育と待機児童の解消は、どこまで進むのでしょうか。昨年、れいんぼー幼児園が開園しましたが、待機児童がまだいます。厚生労働省によると、全国で2万人あまりの

答

待機児童がおり、市町村により数はまちまちですが、はじめからあきらめている方もいるため、表に出てこない数は数十万とも言われています。教育は平等に受ける権利があります。入れなかった方々は仕方なく私立の幼稚園に入りますが、高い授業料を払われていますが、これらの方に補助ができないかお尋ねします。

答 中嶋町長



原野 敏彦 議員

須恵町子ども・子育て支援計画を策定すべく、現在審議中です。計画の中で、町全体で良好な子育て環境をつくっていくという考えのもと、教育・保育の提供区域の設定については、町全体を一つの区域と

しています。

新制度では、3つの認定区分に応じて、幼稚園・保育所・認定子ども園等の施設の利用先が決まっています。

アザレア幼児園は、新築拡充とともに一時預り事業を実施する計画です。また、新制度では、地域型保育の新設により新たな保育事業者の進出も期待されることなどから、いずれの認定区分においても、平成29年度以降、待機児童が解消されるものと推定しています。

新制度における保育料は、国が定める上限額の範囲内で、それぞれの市町村が決定することになっていますが、新制



新アザレア幼児園建設予定地（山の神グラウンド）

度導入後も、現在の額と著しく異なることはないと考えています。また、私立幼稚園在園者については、不公平にならないよう、幼稚園就園奨励費補助金交付に関する規則の改正を検討しています。

子育て支援対策は

クラス定員増と教室の再利用を

問

須恵町の人口増加は、福岡県下第4位の伸び率となり、魅力ある町になりつつあります。第二小学校区では、ミニ開発やマンション建設等により、着々と住宅が増加しています。

町内3幼稚園の3歳児保育の定員は、それぞれ25名に制限されており、27年度入園希望者のうち35名が抽選もれと

なっています。これらの方を救う具体策はないでしょうか。

また、第二小学校では、児童数の増加が続き、昨年4教室を増築されましたが、すでに満杯の状態と聞いています。今後の児童数の動向をどの程度と見込まれていますか。町長の前向きな答弁を求めます。

答 中嶋町長



田原 重美 議員

町立幼稚園は、4・5歳児は定員35人で2クラスずつ、3歳児は定員25人で1クラスの運営をしています。アザレア幼児園開設前は、3歳児保育は実施していませんでしたが、現在は町立の全ての幼稚園で3歳児保育が実施されて

います。

同じ町民であるのに、3歳児保育を受けられる、受けられないという差があつてはいけませんので、平等化するために、25人学級を35人学級にして対応することや、将来的には3歳児クラスを増やすことなどを検討したいと思っております。

また、2歳までは親がしっかりと子どもに愛情を注ぐという教育を徹底していただきたいと思っています。

第二小学校は、現在、特別支援学級を含めて759人、26クラスです。今後は、新1年生が140〜150人で推移し、4〜5クラスとなる見込みです。平成31年度にピークになり、以降は減少傾向にあるようです。



増築された校舎（第二小学校）

新たな住宅建設による増加を各学年5〜10人と推計していますが、普通教室を4教室増築しましたので、過去に特別教室から普通教室に転用した教室を再度利用することで対応したいと考えています。